

# インストラクターの指導により、 会社全体に改善意識を



同社HPはコチラ!

福井市で機械設計・製作・組立を行う株式会社寺本鉄工。ものづくり改善提案具体化事業を活用し、工程進捗を共有できるシステムの導入と各部門のリーダー層への研修を実施しました。今回、事業活用の経緯や活用後の変化について、代表取締役の寺本光宏氏にお話を伺いました。



代表取締役 寺本 光宏 氏

DATA

## 株式会社寺本鉄工

所在地: 福井市三十八社町32-19-31

代表者: 寺本 光宏 氏

事業内容: 機械設計製作・組立・加工

TEL 0776-38-5118

**きっかけは生産性の向上と、  
グループ長の能力開発のため**

「事業を活用したきっかけは、働き方改革が叫ばれる中で生産性向上を図る必要があったことと、グループ長に業務の改善を行う視点や手法を学んでほしいと考えたことです」と寺本氏。同社は以前から、社内で改善提案を募集する制度を導入、運用していましたが、導入当初は、提案も上がってきていましたが、次第に提案の数は減少し、なかなか意見が上がってこないという状況に。

そこで、全10回のインストラクター派遣を通じて各工程の進捗状況を共有できるシステムの導入と、各部門のリー



グループ会議の様子。

ダーを対象に研修を実施。寺本氏は「システムの導入はもちろんですが、リーダーへの研修による意識の変化が一番の収穫だと感じています」と手応えを話します。

**意見を出し合う風土が完成、  
情報共有化も進める**

寺本氏は、「担当していただいた清水インストラクターには、改善の視点や手法だけでなく、会議の場でのように目的を明確にし、その目的をどのように達成していくかのプロセスまで指導してもらいました。2ヵ月に1回行っている部門会議も以前と比べて雰囲気良くなりましたし、改善案も上がってくるようになりました」と話します。

また、工程の進捗状況の共有システムの導入については、「これまでは工程間での情報共有ができていなかったために、急な手待ちが発生するといったことがありました。まだ導入したばかりなのでこれから組織に浸透させ、情報共有を進めることでムダを排除していきたいですね」



同社が製作する機械。設計から電気まで一貫して行う。

と話します。

**メンバーを変え5S活動も、  
自立した組織づくりを**

同社は今後もインストラクター派遣を活用し、5S活動にも着手する予定です。「今回のインストラクターの指導により、良い組織風土ができるようになります。この流れを継続できるように、メンバーを変え、5Sの指導もしてもらおうと考えました」と寺本氏。「改善のプロであるインストラクターから学び、常に改善意識を持ち、良い提案がどんどん上がってくるような自立した組織づくりを目指していきたいです」と展望します。

# 現場改善、新規事業の両輪で 100年企業への基礎づくりを



同社HPはコチラ

坂井市春江町でダンボールの加工・販売を行う株式会社三星。同社は昨年7月～9月にかけてインストラクター派遣事業を活用し、現場改善を開始しています。現場にどのような課題があり、どのように改善を進めているのか。経緯などの詳しいお話を代表取締役の灰谷佳洋氏に伺いました。

DATA

## 株式会社三星

所在地: 坂井市春江町江留中第39号4番1

代表者: 灰谷 佳洋 氏

事業内容: 紙器製造並びに販売、プラスチック製容器の加工並びに販売包装資材の販売、業務の請け負い

電話番号: 0776-51-2121

URL <https://www.i-mitsuboshi.jp/>



代表取締役社長 灰谷 佳洋氏

## ハード面とソフト面の変革 に伴い派遣事業を活用

同社が派遣事業を利用したきっかけは、コロナ禍で行った設備投資でした。ダンボール加工を行う機械を入れ替えましたが、加えて社員教育や生産の仕組みの見直しといったソフト面の変革も必要だと考えたそう。まずは現場が抱える課題を明確にするため、派遣事業の利用に至りました。

また同社は同時期に、週1回改善の手法やモノづくりの理論を学ぶ社内研修も開始しており、灰谷氏は「コロナ禍をきっかけに社内体制の変革や社員教育に力を入れていくと。コロナ禍での逆風を推進力に変えていけるよう、取



同社が導入したデジタル印刷機。1枚からでもオーダーが可能。

組みを開始しました」と振り返ります。

## 具体化事業の利用で 現場の課題解決を目指す

「担当してくださった清水インストラクターは現場に寄り添って意見を集め、課題を指摘してくださいました」。主な課題として、受注から製造指示までの仕組みの見直しと組立エリアの確保といった点が挙げられたとのこと。「自分たちも何となく課題だと思っていたことが、清水さんに指摘していただき明確になりました。課題を皆で共有できた点も良かったですね」

同社は今後、改善提案具体化事業を利用し、製造指示までの仕組みづくりと組立エリアの確保に必要なレイアウト変更といった改善を進めていく予定。灰谷氏は「今回の改善活動では、私はあまり関与しないようにと考えています。指示を受けて改善するのではなく、自ら考えて改善を進めていける風土を作りたいからです」と話します。また、「ものづくりの原理原則を知らないとしても、自分の

仕事だけを基準に改善を考えてしまいます。社内研修を通じて原理原則を学び、広い視野で改善に取り組める人材を育てていきたいですね」とも話します。

## 創業100周年に向け 新規事業の展開も

同社は加工を行う機械の入れ替えと同時に、ダンボールにフルカラー印刷ができるデジタル印刷機を導入。これは印刷用の印版を使わずにデータから直接ダンボールに印刷できる機械で、商品を保護・輸送するための機能だけでなく、販売促進・広告機能を求める顧客層を取り込む狙いがあります。

「フルカラー印刷ですので、展示会等で使用するPOPやパネルも制作できます。ゆくゆくは自社製品の開発・販売も視野に入れ、新しい需要を作り出していききたいですね」と灰谷氏。「これまでのダンボール加工は生産性の向上を、新規事業は販路の拡大を目標に100年企業となるための基礎を作っていければ」と展望します。